

姉妹村 美浦村との情報交換 (その16)

今回のホット情報交換コーナーでは、霞ヶ浦で行われている人気のレジャースポーツ「ブラックバス釣り」について紹介します。

戦跡は レジャースポット

大山地区の霞ヶ浦湖畔には第二次世界大戦中に旧海軍がパイロットの育成や水上飛行機の離着陸訓練に使っていた鹿島航空隊の基地跡があります。当時の指令本館跡の前から湖に向かって一直線に伸びる水上飛行機の滑走路があります。あれから五十年余、今そこは週末にジェットスキーやウィンドサーフィン



湖畔霞ヶ浦にぎわう釣人

などの水上スポーツを楽しむ若者たちで賑わっています。そして近年、高まるバス釣りの人気も、日本最大のブラックバス釣りの全国組織JB(プロ・会員数一、二〇〇名)、NBC(アマチュア・会員数二、〇〇〇名)主催の大会が、四月から十月までの日程で大山地区の霞ヶ浦で行われています。

この大会はプロ・アマによるボート釣りや岸釣りなどが行われ、多い日には七〇〇名を超える参加者が競われています。また、大会終了後は、毎回周辺のゴミ拾いを実施するなど地元に対する配慮がされています。

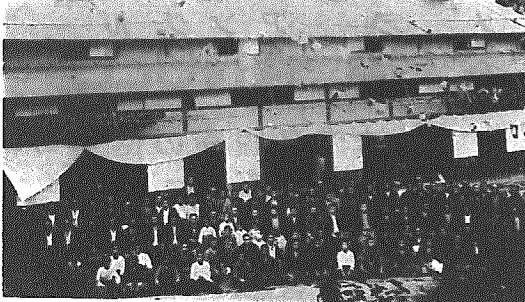
勲六等瑞宝章受章 故 佐藤松次郎さん

去る六月二十日にご逝去された

た佐藤松次郎さん(横越・七十三歳)に、このたび地方自治功労者として勲六等瑞宝章が授与されました。佐藤さんは、昭和四十六年から五十八年までの三期十二年間村議会議員として活躍され、村政や地方自治発展のために尽力されました。

沢海の産業組合と大成社

戦前の横越の産業と言えば、米作に次いで養蚕が盛んだったことが大きな特徴です。村内でも沢海・横越・小杉・木津・二本木の阿賀野川・小阿賀野川沿いの自然堤防の地形が水田に適さず、畑地や野菜が多かったところへ、明治の中頃から「まゆ」の需要が増大し、これらの地区では養蚕によって収入を増やそうと桑畑を開き、競って取り入れたのです。



大成社の3周年記念祝賀会並びに第1回卒業式(明治41年)大成社は、現在の沢海上の窪田孝平氏宅付近にあった



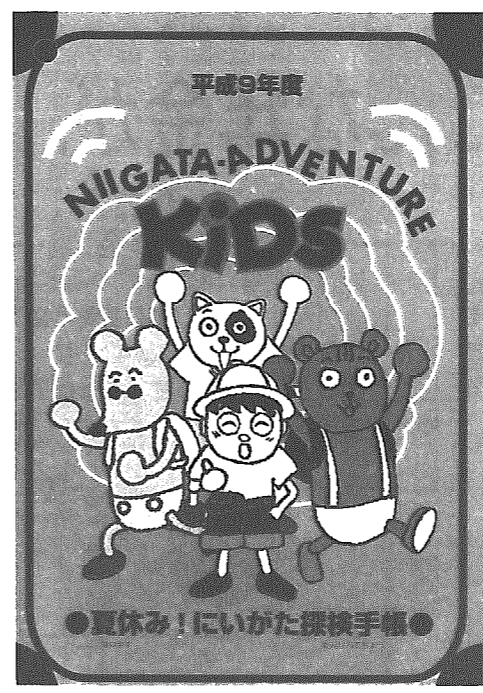
ふる里物語

町史編さんだより 35

中でも沢海地区は水田が皆無で貧しい地区と見られていたが、養蚕を取り入れてからはこれを本業とする農家が多くなり、好況の時は多額の現金収入で潤ったようです。当時の『新潟新聞』にも明治二十八年以降しばしば沢海の養蚕の景況を伝える記事が見られます。しかし、初めの頃はその飼育方法が幼稚で、地区内でも各戸で異なった自説を主張し合って他の意見を聞かず、そのために沢海のまゆは悪質と評され、安く買いたたかれる有様でした。このような状況を克服し、合理的な飼育方法を学習し、養蚕家全体の協力態勢をつくらうと主唱した代表的な住民の一人が五十嵐平太郎でした。彼は明治三十八年二月、沢海地区の農家の子弟四十八人を集め、当時の中浦原郡養蚕各種同業組合常設巡回教師(指導員)加藤知正と加藤の推薦する宅島林造という専門家を招いて、春蚕法・蚕病

小中学生に「夏休み!にいがた探検手帳」交付

新潟都市圏総合整備推進協議会及び新潟地域広域市町村圏協議会(両協議会合わせて、横越町を含め周辺20市町村)では、圏域内の小中学生を対象に、近隣市町村にどのような施設があるかを知ってもらい利用してもらおうと、圏域内の施設を紹介する小冊子「夏休み!に



いがた探検手帳」を作成し交付しました。紹介されている施設は、35カ所です。この手帳を利用できる日は、今年の夏休みの期間です。無料の施設を除き、割引などができる回数は1施設につき1回だけです。利用する場合は、施設の入口で手帳を見せ、半券を切り取って窓口の人に渡してください。

6月資源ごみ収集実績

空きびん	6.3 t
空き缶	4.8 t
古紙	19.6 t
合計	30.7 t

8月資源ごみ収集日

地区	収集日
横越・川根谷内	5日(火)
	19日(火)
その他の地区	7日(木)
	21日(木)

「我が町のかんばん娘」を募集します。仕事や、スポーツ・文化クラブ等ががんばっている未婚の女性で、町内在住の方。自薦・他薦を問いません。役場企画財政課までご連絡下さい。

耳よりの情報

~新潟都市圏情報ネットワーク~

〈新潟市〉
◎日本海夕日コンサート
▶期日 8月10日(日) 午後5時30分開演
▶会場 青山海岸(通称:小針浜)
▶内容 夕日の沈む日本海をバックに、一流アーティストたちの共演を楽しむ
▶問い合わせ 日本海夕日キャンペーン実行委員会 ☎228-5227

〈黒埼町〉
◎黒埼まつり
・8月17日(日)
▶会場 大野町商店街
▶内容 民謡流し、やかた竿燈、おみこし
・8月18日(月)
▶会場 新潟ふるさと村
▶内容 花火大会、もちつき大会 黒埼茶豆・コシヒカリの試食販売 郷土芸能、民芸品の展示・販売 他
▶問い合わせ 黒埼町役場企画商工課 ☎377-3101



養蚕技術指導者 宅島 林造

について三十一日間にわたる養蚕講習会を開催しました。これに大地主伊藤家の総理番頭伊藤九郎太が積極的に援助し、講習生を励ましたそうです。この講習を通して地区の養蚕家は合理的な養蚕技術に目覚め、その終了後、伊藤九郎太外有志者が協議し、受講生を中心として同年七月二十一日、沢海生産販売組合を発足させました。記録を見

ると当初四十名の組合員数が四十一年度には六十九名に増えており、養蚕家の期待が集まった様子がかがわれます。同組合が掲げた改善の方法を見ると、「蚕室・蚕具ヲ模範的ニ設備シ合理的ナル飼育法ヲ実行シ……(中略)……伝習所ヲシテ養蚕ノ善良ナルモノヲ製造セシメ之レヲ組合員ニ供給スル」ことが主な方針となっています。

ここで言う伝習所は大成社という名称で実現し、村の内外から実習生を受け入れながら稚蚕の共同飼育を行ったのです。この大成社の経営を託され成功させたのが先に挙げた宅島林造です。彼は長崎県の出身でしたが、埼玉県の共進社という養蚕の専門学校で学んだ人で、熱心な研究者であり優れた指導者でもあったので、三十八年来村以来、地区の人々の信頼厚く、沢海の養蚕の発展に尽くしました。沢海の養蚕と言えば大成社かと言われるほど県下でも注目されていたのです。(五十嵐孝哉氏所蔵『沢海蚕糸業の経営方法及成績・明治四十一年編』に主

(近現代部会 大塚 哲)